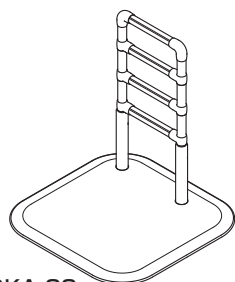
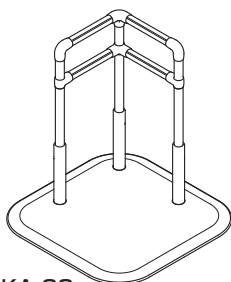


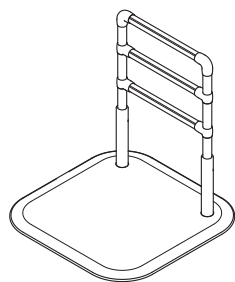
取扱説明書



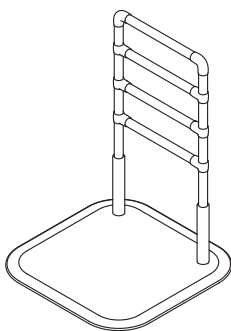
CKA-22



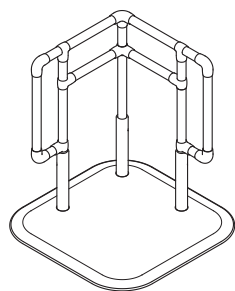
CKA-23



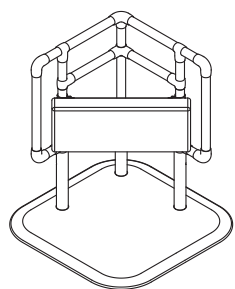
CKA-24



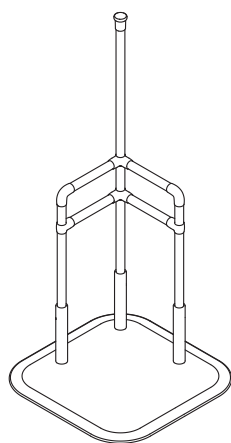
CKA-31



CKI-21



CKI-22



CKI-31

たちあっぷ®Ⅱ

品番：CKA-22・CKA-23・CKA-24・CKA-31

たちあっぷ®Ⅱ でらっくす たちあっぷ®Ⅱ ひざたっち®

品番：CKI-21・CKI-22

たちあっぷ®Ⅱ たててすり

品番：CKI-31

目次

！安全に関する表示	2
1. 使用上のご注意	2
2. ご使用方法	4
3. 設置上のご注意	8
4. 構成部品	10
5. 各種部品表	12
6. 組立手順	14
7. ご使用前の確認	21
8. お手入れ方法	22

※ 本書記載の「たちあっぷⅡシリーズ」とは、弊社製品「たちあっぷⅡ でらっくす」、「たちあっぷⅡ ひざたっち」、「たちあっぷⅡ たててすり」、「たちあっぷⅡ」を指します。

お買い上げありがとうございます

販売店様：この説明書は必ずお客様に説明してからお渡してください。

ご利用者様：使用前にこの説明書を必ずお読みになり大切に保管してください。

！安全に関する表示

※いずれも安全に関する内容ですので必ず守ってください。

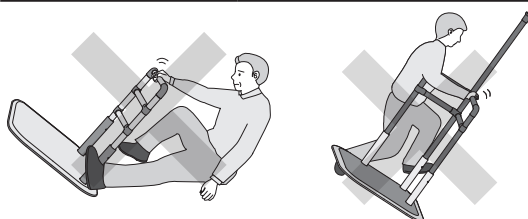
！ 警告	誤った使用をされた場合、「死亡や重傷につながる可能性がある」内容を警告しています。	 禁止	してはいけない内容です。
！ 注意	誤った使用をされた場合、「傷害や財産への損害につながる可能性がある」内容を注意しています。	 必ず守る	必ず守っていただく内容です。

1. 使用上のご注意

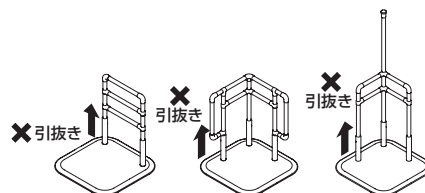
！ 警告

- 起き上がり・立ち上がり補助、移乗補助、歩行補助以外の用途では使用しない。
踏み台、いす、はしごなどの用途では使用しないでください。

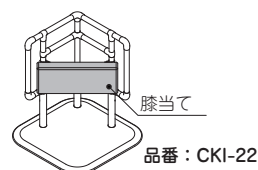
- ベースに乗っていない状態で必要以上に水平方向に力を加えない。
手すりに力をかけた際に、ベースが持ち上がり転倒事故やケガの原因になります。
手すりを持ち床面に向かって押さえつける方向に力をかけてください。



- 手すり引抜き方向に力を加えない。



- 膝当てを手すり代わりに使用したり、腰掛けたりなどしない。



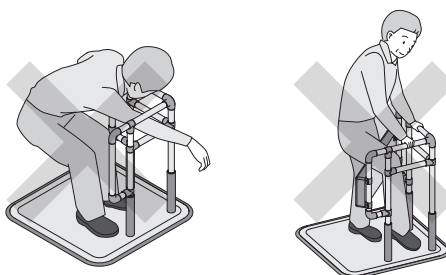
禁止

- 子供を遊ばせるなど遊具として使用しない。
事故のおそれがあります。手すりにぶら下がったり、手すりの上に乗ったりしないでください。

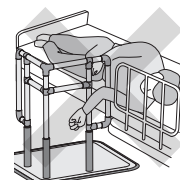
- 濡れた手、脚、靴底で使用しない。
滑って転倒するおそれがあります。

- ベースや手すりフレーム、膝当てが濡れた状態で使用しない。
滑って転倒するおそれがあります。布などで拭き取り、乾いた状態で使用してください。

- 手すりフレームに頭や手、脚を入れない。
手すりフレームと膝当ての間に頭や体、手、脚を入れない。
窒息や骨折のおそれがあります。



- 手すりフレームや膝当てとベッドやマットレスとの間に頭や体、手、脚を入れない。
窒息や骨折のおそれがあります。



⚠ 警告

 禁止	● 予測できない行動をとる・自力で危険な状態から回避することができない利用者は使用しない。 利用者の心身の状態や利用環境により、手すりフレームのすき間に身体の一部を入れる可能性があり、場合によっては生命に関わる重大事故につながるおそれがあります。特にベッドの上で予測できない行動をとられる利用者（認知症など）や、自力で危険な状態から回避することができない利用者（認知症など）につきましては、ご使用を控えてください。 ※重度者（特に介護度 4・5）の方が利用する場合は、十分モニタリング、フィッティングを行った上で使用してください。 また、ご使用に適さなくなった場合は、直ちに使用をやめ、お買い上げの販売店または医師や介護士、ケアマネジャーなど専門家に相談し、適切な処置を受けてください。
 必ず守る	● 使用に際しては、利用者の身体の状態により介護者が付き添うなど、安全には十分な配慮をする。 お買い上げの販売店または医師や介護士、ケアマネジャーなど専門家に相談することをお勧めします。 ● 固定式でないため設置後の安定性、利用者の状況を確認の上、使用する。 ● 利用者の健康状態や体調が変化した場合は直ちに使用を中止する。 ご使用を再開される場合は医師や介護士、ケアマネジャーなど専門家に相談してください。 ● 車いすから立ち上がりや移乗の際は必ず車いすのブレーキをかける。 車いすが動いて転倒するおそれがあります。 ● ベッドやマットレスの横に置く場合は、寝具との間にすき間ができない状態で使用する。 本製品は固定式ではないため、水平方向の力を加えたり、振動によって設置位置がずれてしまう可能性があります。 寝具との間にすき間が生じると、身体をすき間にはさむなどしてケガをするおそれがあります。 常に寝具との間にすき間がない状態で使用してください。 立ち上がりや移乗補助として寝具から離して設置する場合は、寝具とのすき間に身体がはさまらない間隔になるように設置してください。

⚠ 注意

 禁止	● 2人以上同時に使用しない。 「たちあっぷⅡシリーズ」は1人用です。
 必ず守る	● 使用の際は介護者が利用者の状態（安全に使用できる状態にあるか）を確認する。 利用者の健康状態や体調が変化した場合には、お買い上げの販売店または医師や介護士、ケアマネジャーなど専門家に相談してください。 ご使用の際は介護者が付き添って使用することをお勧めします。 ご使用に合わない場合は直ちにご使用をおやめください。 ● 介護者などの付き添いが必要な方が使用する場合は十分注意する。 ● 布団やマットレスで使用する場合は、ベースを敷布団やマットレスの下に差し込み、手すりフレームを寝具と平行に設置する。 ● ベッドサイドで使用する場合は「たちあっぷⅡシリーズ」の安定性を確認して使用する。 ● ベッドフレームの下に18mm以上のすき間があるか確認する。 ベッドフレームの下に18mm以上のすき間がない場合、ベースをベッドの下に差し込むことができません。 ● 「たちあっぷⅡ たててすり」を使用する時は縦手すりに顔や頭をぶつけないように注意して使用する。 ● ベースの縁ゴムには厚みがあるため、すり足など使用上支障のある方は注意する。 ● ベースは必ずマットを貼り付けた状態で使用する。 使用中にマットがめくれたり、たるみがあった場合は整えてから使用する。 マットを使用しないと滑って転倒するおそれがあります。 また、マットにめくれやたるみがあるとつまずいて転倒するおそれがあります。

⚠ 注意

●裏面が平らなスリッパや厚手の靴下での使用は滑る場合があるので注意する。

●すり足で歩くとマットがめくれる場合があるので注意する。
常時すり足でご使用になる場合は転倒のおそれがありますので使用しないでください。

●移動させる場合は、ベースもしくはスタンド部を持って移動させる。
手すりを持ち上げるとねじのゆるみなどでベースが落下し、ケガをするおそれがあります。
また、引きずると床面を傷つけたり、縁ゴムの外れや破損のおそれがあります。

！
必ず守る

●はめ込み式の縁ゴムの引っ張ったり、ベースを引きずったりすると外れる可能性がある。
構造上ゴムに動きがある場合がありますが、性能（安定性等）に影響するものではありません。
縁ゴムが外れた場合は、縁ゴムを手で押し込んで取り付けてください。

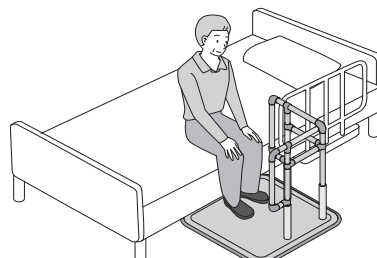
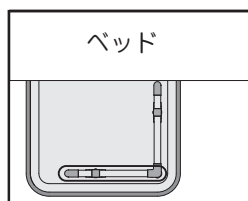
●結露した場合は乾いた布などで拭き取る。
室内環境によって金属部分に結露が発生するおそれがあります。
結露した状態で放置すると布団や畳にカビを発生させる原因になります。
常に拭き取ってから使用してください。

●製品に異常を見つけた場合は使用を中止する。
正しく設置できない場合や機能を損なう状態の場合は直ちにご使用を中止し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

2. ご使用方法

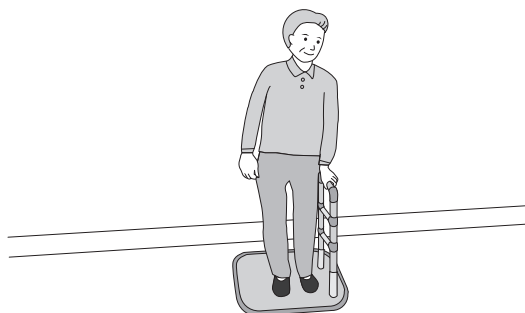
設置箇所の確認

●ベッドサイドに置いて使用する場合は、利用者が立ち上がる場所（脚を置く場所）に設置してください。

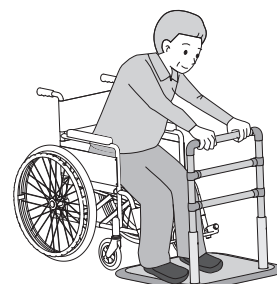


□ 立位保持、動作補助

●ベースに乗り、手すりフレームを持ちながら、直近の歩行補助としてご使用ください。



●車いすやポータブルトイレからの立ち上がりには使用する場合は、ベースに乗り、前方の手すりフレームをつかんで体を引き上げるようにして立ち上がります。

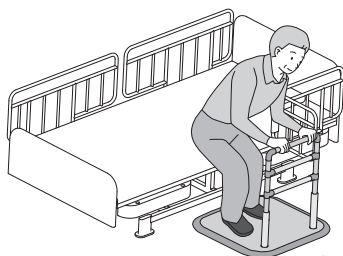


□ 移乗補助

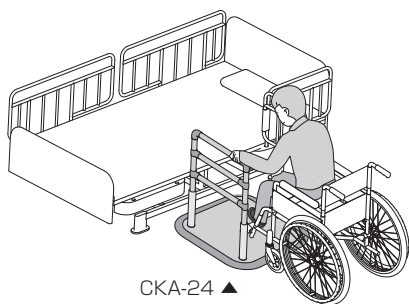


たちあっぷⅡシリーズ<Iタイプ>を使用

- ベッドや車いすからの立ち上がりを使用する場合は、ベースに乗り、手すりフレームとサイドレールをつかんで体を引き上げるようにして立ち上がります。



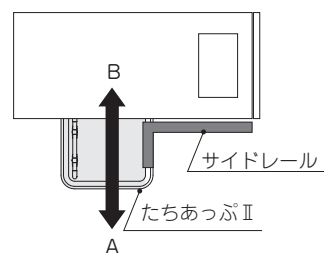
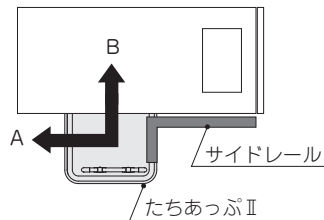
▲ CKA-24



CKA-24 ▲

動線図

下図 A から B、B から A のような移動がしやすい形状です。



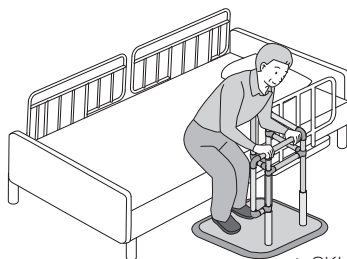
<Iタイプ>

品番
・ CKA-22
・ CKA-24
・ CKA-31



たちあっぷⅡシリーズ<Lタイプ>を使用

- ベッドや車いす、便器からの立ち上がりを使用する場合は、ベースに乗り、前方の手すりフレームを両手でしっかり持ち、立ち上がります。



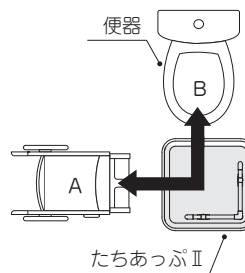
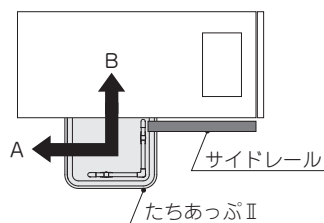
▲ CKI-21



▲ CKI-31

動線図

下図 A から B、B から A のような移動がしやすい形状です。



<Lタイプ>

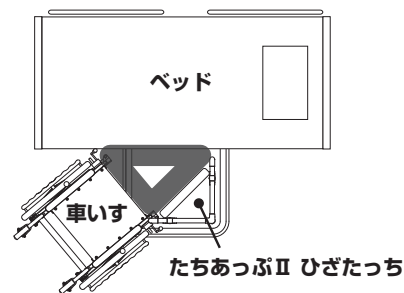
品番
・ CKA-23
・ CKI-21
・ CKI-22
・ CKI-31

「たちあっぷ®Ⅱ シリーズ」 の介助事例

たちあっぷⅡ ひざたちち 介助手順

「たちあっぷⅡ ひざたちち」を利用した、ベッドから車いすへの
移乗の介助手順の一例です。

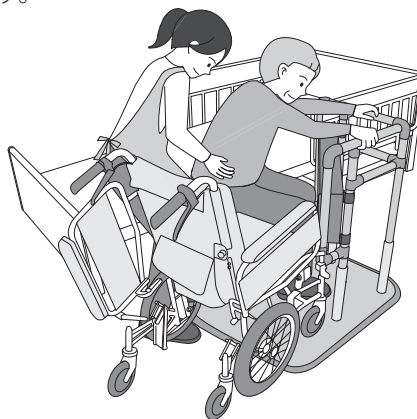
ベッドと車いすの位置関係は、右図のように三角形ができる
位置がベストです。



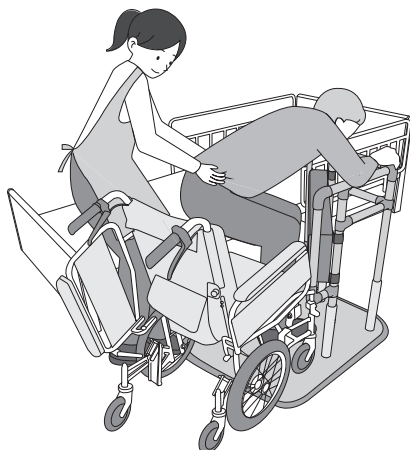
- ①. 利用者に「たちあっぷⅡ ひざたちち」の手すりをにぎってもらいます。介助者は、うしろ側から利用者の体を支えてください。
- ②. 介助者は、利用者の腰を手前に引き寄せて利用者を車いすに近づけます。このとき利用者の上半身を左に軽く倒しながら行くと、腰を手前に引きやすくなります。



- ③. 利用者の移乗先側（この場合は車いす側）の足を前に出します。これは、移乗する際に足を交差し、ねじってケガをしないようにするためです。
- ④. 介助者は、利用者の腰を両手でしっかり持って、移乗準備をします。移乗する側の高さを少し低くするとスムーズにできます。



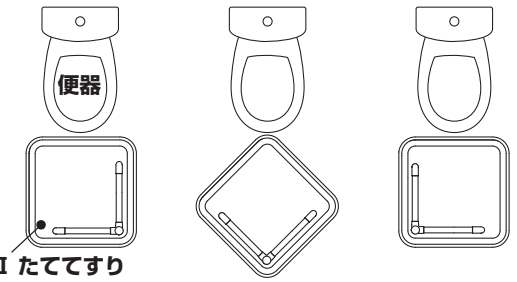
- ⑤. 介助者は、利用者に声を掛けながら車いすへ移乗させます。このとき、上体を前に倒すと腰が浮いて動かしやすくなります。「たちあっぷⅡ ひざたちち」を利用すれば、前に倒れる心配もなく、ひざ当てがあるため、ひざ折れもなく安心です。
- ⑥. しっかり移乗できたことを確認して、利用者の手を手すりから離してください。



たちあっぷⅡ たててすり 介助手順

「たちあっぷⅡ たててすり」を利用した、便器から車いすへの移乗の介助手順の一例です。

「たちあっぷⅡ たててすり」は、右図のように利用者の状態に応じて、縦手すりをつかみやすい位置に設置できます。



たちあっぷⅡ たててすり

▲左手すり

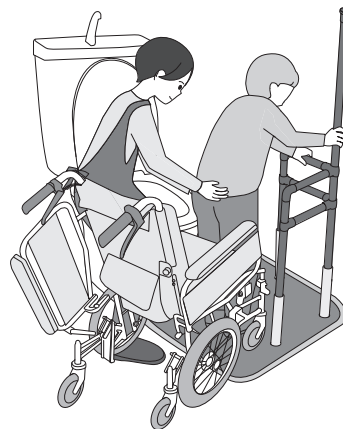
▲正面すり

▲右手すり

- ①. 利用者に前傾姿勢を取りながら、縦手すりをにぎってもらいます。介助者は、うしろ側から利用者の体を支えてください。介助者は利用者の上半身を前に軽く倒しながら介助を行うと、縦手すりをにぎりやすくなります。
- ②. 介助者は利用者の体を支えながら、利用者を立ち上げさせます。



- ③. 足元に気を付けながら利用者は踏み替えを行い、移乗先側（この場合は車いす側）に体の向きを変えます。介助者は、利用者の腰を両手でしっかり持って、移乗準備をします。
- ④. 介助者は、利用者に声を掛けながら車いすへ移乗させます。



- ⑤. しっかり移乗できたことを確認して、利用者の手を手すりから離してください。



3. 設置上のご注意

⚠ 警告



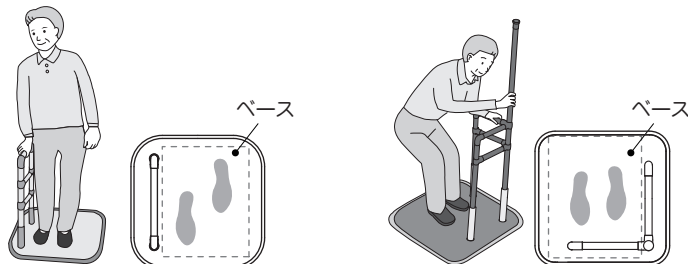
禁止

● 弊社製品と他社製品を組み合わせない。
破損やケガの原因になります。また、他社製品と組み合わせた製作物の安全は保証できません。

● 改造・加工は絶対に行わない。
事故の原因になります。

● 設置後、ガタつき・ねじのゆるみ・締め忘れがないことを必ず確認する。

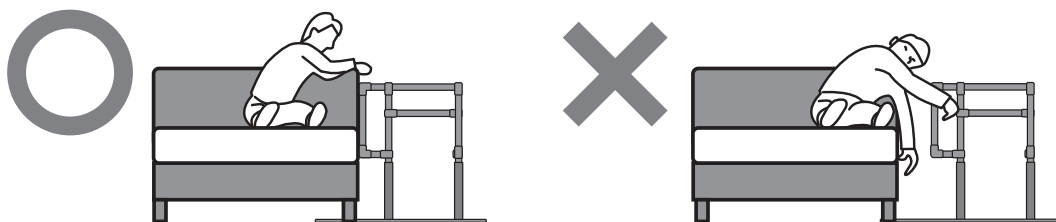
● 歩行補助や水平に力を加える場合は利用者が乗って使用するようにベースを設置する。



● ベッドやマットレスの横に置く場合は、「たちあっぷⅡシリーズ」と寝具との間にすき間がないように設置する。

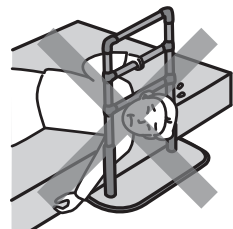
身体をすき間にはさむなどしてケガをするおそれがあります。

ベッドの構造によりすき間が生じる場合は、クッション材や毛布などで埋めるなどしてすき間をなくすようにしてください。立ち上がりや移動補助として寝具から離して設置する場合は、寝具とのすき間に身体がはさまらない間隔になるように設置してください。



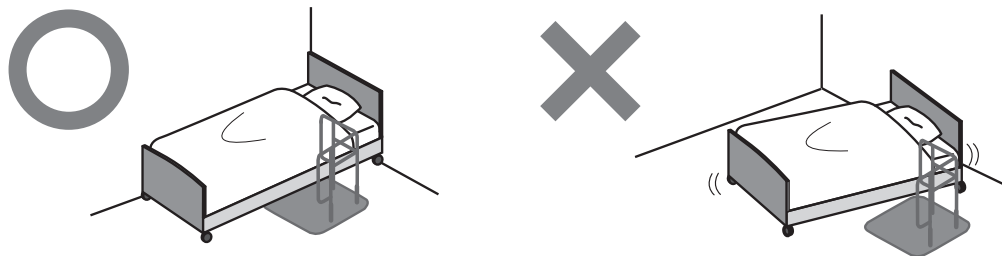
必ず守る

● ベッドの構造やマットレスの厚みにより頭や体のはさまるすき間が生じる場合は、クッション材や毛布などで埋めるなどしてすき間をなくす。



● キャスター付きのベッドで使用する場合は、必ずキャスターを固定する。

キャスターにロック機構がある場合は必ず使用してください。ロック機構がない場合には、キャスターホルダーを使用するなど、必ずベッドが動かないように固定してください。(ベッドは壁に接するように設置すると安定します) ベッドが固定できないと、使用中にベッドが動いて手すりとの間にすき間が生じるので大変危険です。



● 折りたたみベッドで使用する場合は、ベッドの折りたたみ機構を必ずロックして使用する。

ロック機構のない折りたたみベッドでは使用しないでください。



⚠ 警告

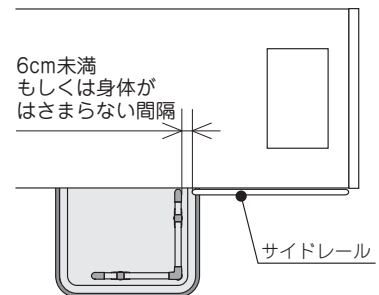
●電動ベッドで使用する場合は、電動ベッドの取扱説明書を確認する。
特殊寝台など、「たちあがびⅡシリーズ」が使用できない場合があります。

●電動ベッドで使用する場合は、頭や手、脚が入った状態でベッドを操作すると、はさまれて身体の傷害や生命にかかわる事故を発生させるおそれがあるので注意する。
電動ベッドで使用する場合は、利用者の身体がはさまらない安全な間隔で設置してお使いください。
また、電動ベッドの手元スイッチは、無意識に触れて誤操作しないように、置く場所に十分注意してください。



●お使いの電動ベッドに装着しているサイドレール、介助バーと組み合わせて使用する際は、利用者の健康状態（安全に使用できる状態にあるか）を確認して使用する。

組み合わせて使用する際のすき間は6cm未満もしくは身体がはさまらない間隔になるように設置し、すき間に十分注意して使用してください。身体（首や手、脚など）をはさむすき間があると事故の原因になります。
利用者の健康状態や体調が変化した場合には、お買い上げの販売店または医師や介護士、ケアマネジャーなど専門家に相談してください。
ご使用の際は介護者が付き添って使用することをお勧めします。
ご使用に合わない場合は直ちにご使用をおやめください。



⚠ 注意

●指定締め付けトルク値以上で締め付けない。
破損するおそれがあります。（「6. 組立手順」で示すトルク値に従って締め付けてください。）

●電動工具（電動ドライバー等）を使用しない。
過剰トルクで締め付けるとねじの破損の原因になります。
（ねじの締め付け摩擦熱により焼き付けが発生し、締め付け・取外しができなくなる可能性があります。）

●屋外や直射日光の当たる場所では使用しない。
金属部分が熱くなり火傷の原因になります。変質・軟化・変形または破損するおそれがあります。

●火のそば・熱器具（ストーブ等）の近くでは使用しない。
金属部分が熱くなり火傷の原因になります。変質・軟化・変形または破損するおそれがあります。

●水やお湯に濡れる場所では使用しない。
変質や破損するおそれがあります。

●昇降機構のある電動ベッドには、「ベットでとまるくん」を装着しない。
「ベットでとまるくん」を装着したままベッドを昇降すると、破損や機能を損なう原因になります。

●室内で使用する。

●平らで水平な場所で使用する。

●組み立て、高さ調整は納入業者が行う。

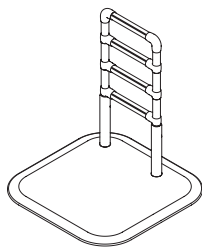
●手すりフレームは、ベースから外した状態では強度がないので、衝撃や荷重による破損に十分注意する。
輸送・保管する場合は、納入時の梱包用段ボールを使用して管理することをお勧めします。

●クッションフロア材（塩化ビニル製）などの上に長時間設置するとクッションフロア材にへこみや色移りする場合があるので注意する。

●定期的にガタつき・ねじのゆるみ・部品の破損がないことを確認する。

4. 構成部品

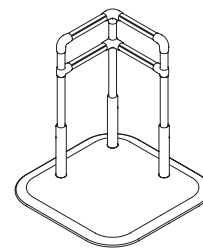
※部品が揃っていない、または破損している場合は直ちにお買い上げの販売店へご連絡ください。



CKA-22

質量：18.4 kg

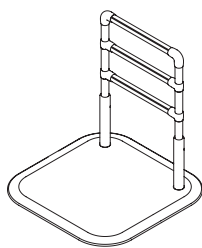
名 称	数 量	サ イ ズ
手すりフレーム CKA-FI4	1	679 × 338mm
ベースⅡ	1	660 × 660mm
スタンド 32	2	φ 42.7 × 250mm
マットⅡ A	1	627 × 627mm
六角穴付き皿ねじ	6	M8 × 15mm
六角穴付き止めねじ	2	M10 × 36mm
六角穴付き止めねじ	4	M8 × 5mm
六角レンチ	各 1	対辺 4mm・5mm



CKA-23

質量：20.4 kg

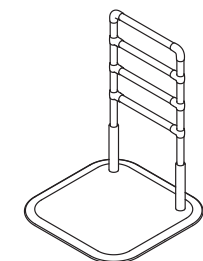
名 称	数 量	サ イ ズ
手すりフレーム CKA-FL3	1	679 × 338 × 338mm
ベースⅡ	1	660 × 660mm
スタンド 32	3	φ 42.7 × 250mm
マットⅡ A	1	627 × 627mm
六角穴付き皿ねじ	9	M8 × 15mm
六角穴付き止めねじ	3	M10 × 36mm
六角穴付き止めねじ	6	M8 × 5mm
六角レンチ	各 1	対辺 4mm・5mm



CKA-24

質量：18.4 kg

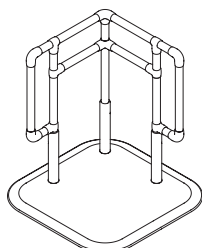
名 称	数 量	サ イ ズ
手すりフレーム CKA-F24	1	679 × 462mm
ベースⅡ	1	660 × 660mm
スタンド 32	2	φ 42.7 × 250mm
マットⅡ A	1	627 × 627mm
六角穴付き皿ねじ	6	M8 × 15mm
六角穴付き止めねじ	2	M10 × 36mm
六角穴付き止めねじ	4	M8 × 5mm
六角レンチ	各 1	対辺 4mm・5mm



CKA-31

質量：19.0 kg

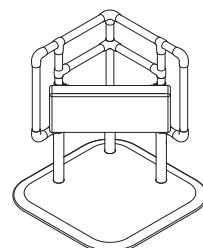
名 称	数 量	サ イ ズ
手すりフレーム CKA-F31	1	829 × 462mm
ベースⅡ	1	660 × 660mm
スタンド 32	2	φ 42.7 × 250mm
マットⅡ D	1	625 × 625mm
六角穴付き皿ねじ	6	M8 × 15mm
六角穴付き止めねじ	2	M10 × 36mm
六角穴付き止めねじ	4	M8 × 5mm
六角レンチ	各 1	対辺 4mm・5mm



CKI-21

質量：21.6 kg

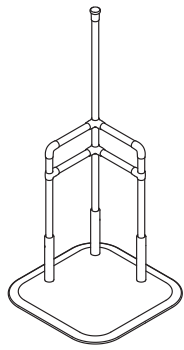
名 称	数 量	サ イ ズ
手すりフレーム CKI-F21	1	703 × 462 × 462mm
ベースⅡ	1	660 × 660mm
スタンド 32	3	φ 42.7 × 250mm
マットⅡ A	1	627 × 627mm
六角穴付き皿ねじ	9	M8 × 15mm
六角穴付き止めねじ	3	M10 × 36mm
六角穴付き止めねじ	6	M8 × 5mm
六角レンチ	各 1	対辺 4mm・5mm



CKI-22

質量：23.3 kg

名 称	数 量	サ イ ズ
手すりフレーム CKI-F22	1	703 × 462 × 462mm
ベースⅡ	1	660 × 660mm
スタンド 32	3	φ 42.7 × 250mm
マットⅡ A	1	627 × 627mm
膝当て	1	200 × 500 × 75mm
六角穴付き皿ねじ	9	M8 × 15mm
六角穴付き止めねじ	3	M10 × 36mm
六角穴付き止めねじ	6	M8 × 5mm
六角レンチ	各 1	対辺 4mm・5mm

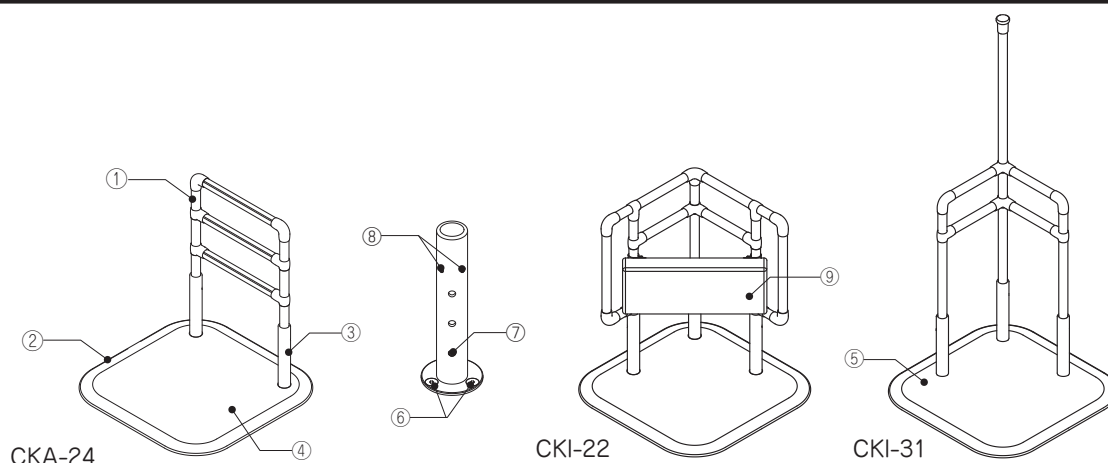


CKI-31

質量：20.9 kg

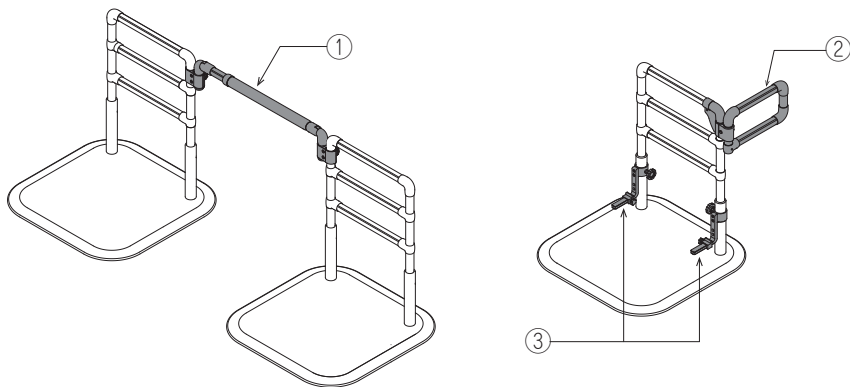
名 称	数 量	サ イ ズ
手すりフレーム CKI-F31	1	1319 × 338 × 338mm
ベースⅡ	1	660 × 660mm
スタンド32	3	φ 42.7 × 250mm
マットⅡ D	1	625 × 625mm
六角穴付き皿ねじ	9	M8 × 15mm
六角穴付き止めねじ	3	M10 × 36mm
六角穴付き止めねじ	6	M8 × 5mm
六角レンチ	各 1	対辺 4mm・5mm

5. 各種部品表



	名称	材質	部品図
①	手すりフレーム	ジョイント：プラスチック パイプ：プラスチック被覆 スチールパイプ	CKA-FL3 CKA-FI4 CKA-F31 CKA-F24 CKI-F21 CKI-F22 CKI-F31
②	ベースⅡ	ステンレス 縁部：樹脂 / アルミ	
③	スタンド32	ステンレス	
④	マットⅡ A	ポリエステル（ベージュ） 吸着部分：アクリル樹脂	
⑤	マットⅡ D	ポリエステル（ダークブラウン） 吸着部分：アクリル樹脂	
⑥	六角穴付き皿ねじ (M8 × 15mm)	ステンレス	
⑦	六角穴付き止めねじ (M10 × 36mm)	ステンレス	
⑧	六角穴付き止めねじ (M8 × 5mm)	ステンレス（黒）	
⑨	膝当て	クッション部：樹脂 取付金具：スチール 六角穴付きボルト (M6×10)：スチール	
—	六角レンチ (添付工具)	スチール	対辺4mm 対辺5mm

※オプション品のご案内



	名 称	図	説 明	取付可能製品
①	つながるくん		手すりフレームを連結して、動線を確保できます。 ※ CKA-22 ～ 24 と CKA-31 を連結する場合は、手すり高さを 850mm に揃えた場合に限り、使用可能です。 ※ CKA-31 同士を連結する場合は、両方の高さを揃えてご使用ください。	CKA-22 CKA-23 CKA-24 CKA-31
	伸縮つながるくん		手すりフレームを連結して、動線を確保できます。 ※ 「たちあっぱⅡ CKA-31」のたててすり部分に取り付けて使用しないでください。	CKA-22 CKA-23 CKA-24 CKA-31 CKI-31
②	かいじょくん		「ベッドでとまるくん」と組み合わせて取り付けすることで立ち上がり、移乗、座位保持をサポートします。詳しくは「かいじょくん」の取扱説明書を参照ください。	CKA-22 CKA-23 CKA-24 CKA-31
③	ベッドでとまるくん		ベッドで使用する際に、たちあっぱスタンドに取り付けて安定性を向上させることができます。	CKA-22 CKA-23 CKA-24 CKA-31

・「つながるくん」、「伸縮つながるくん」を使用し「たちあっぱⅡ」同士の連結や「たちあっぱⅡ」と「あがりかまち用たちあっぱ」との連結を行う場合は、「ベッドでとまるくん」を使用しなくても安定性が得られるため、あえて使用する必要はありません。

◇オプション品の詳細はお買い上げの販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意



必ず守る

● オプション品を取り付けて使用する場合は、オプション品の取扱説明書も合わせて確認する。

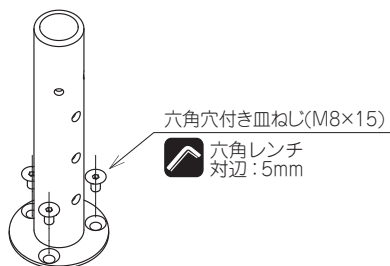
6. 組立手順

※組み立て、高さ調節は納入業者が行ってください。

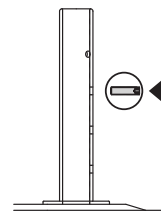
① ベースとスタンドの取付け

スタンド取付位置を確認し、スタンド上側より六角穴付き皿ねじ 3 本でスタンドを取り付けてください。
六角レンチで仮止めの状態にしておきます。

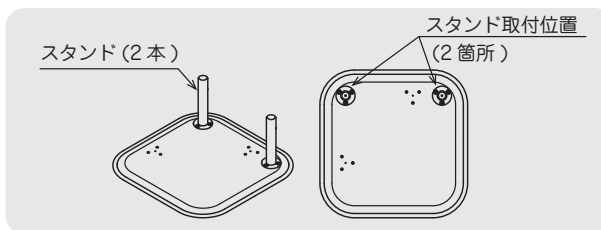
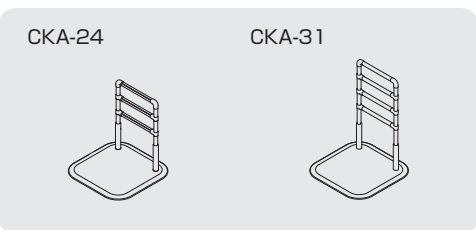
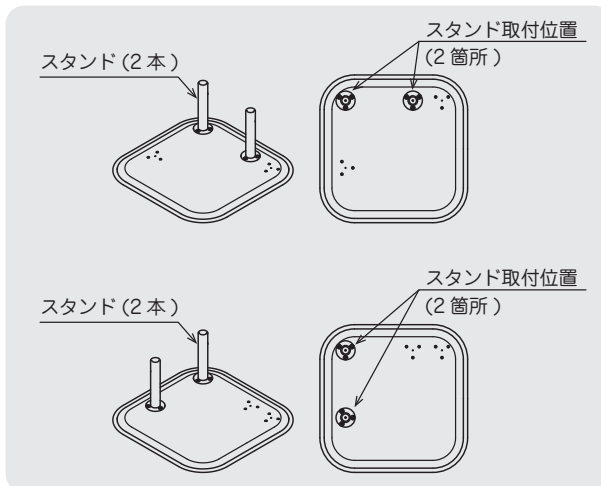
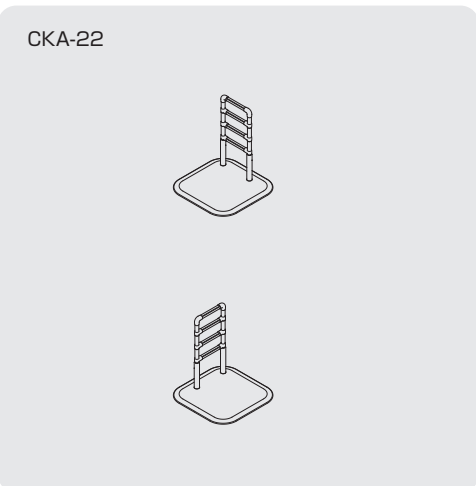
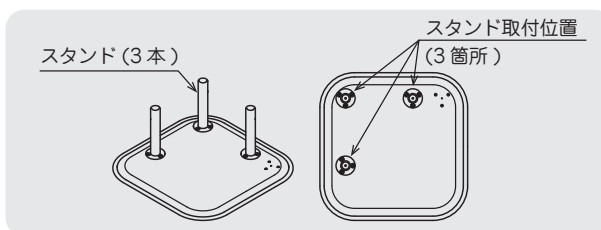
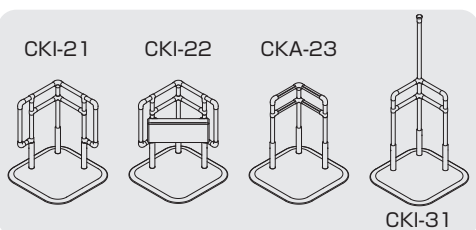
※取付位置は<スタンド取付位置図>をご参照ください。



スタンドは高さ調整ねじが
ベースの外側から取り付けられる位置に
取り付けてください



<スタンド取付位置図>



⚠ 注意

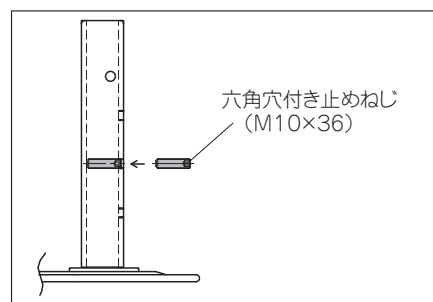
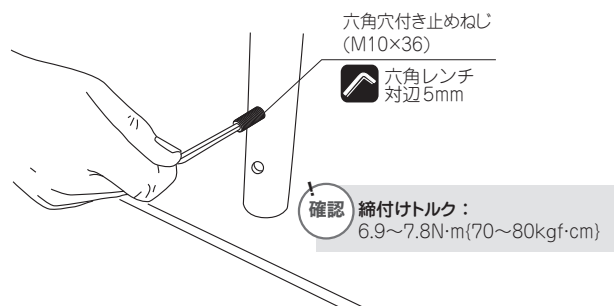


必ず守る

- スタンド・ベース及び手すりフレームは必ず指定の位置に指定のねじで固定する。
他の位置にはスタンドを取り付けないでください。
- ねじは、ねじ穴に対してまっすぐ締め付ける。
無理に締め付けるとねじ山の破損の原因になります。

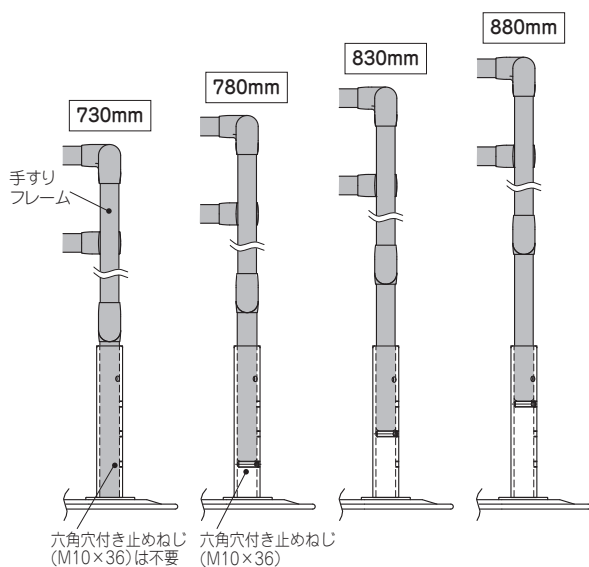
② 手すりフレームの高さ調整

手すりフレームの高さは〈手すりフレームの高さ〉の範囲で4段階の位置決めができます。
手すりフレームの高さを決め、高さ調整ねじ穴に六角穴付き止めねじを六角レンチで締め付けてください。
奥まで締め付け、スタンド面からねじ頭が出ていないことを確認してください。

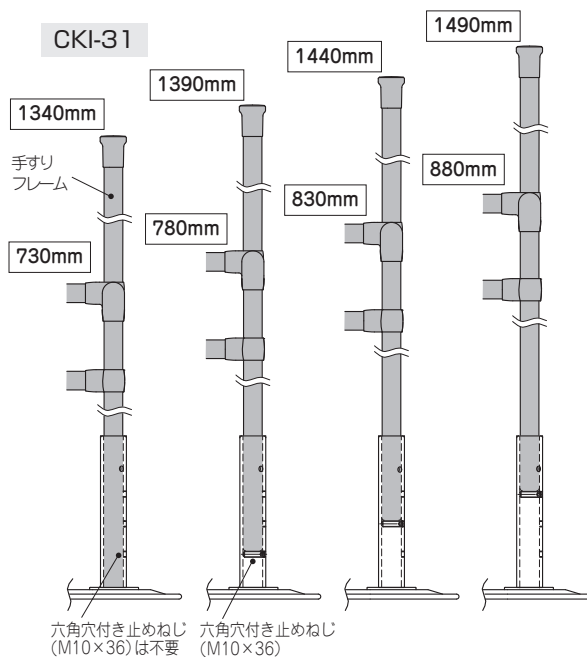


〈手すりフレームの高さ〉

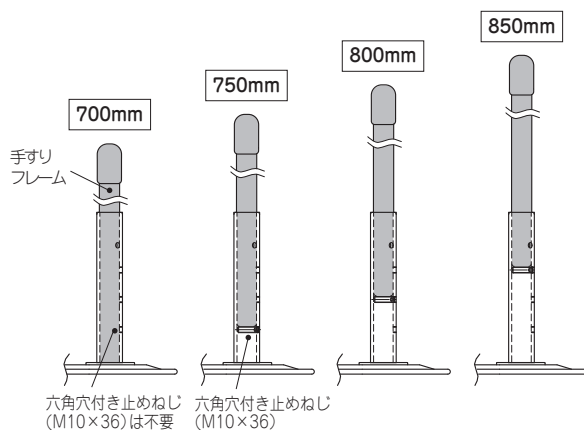
CKI-21・CKI-22



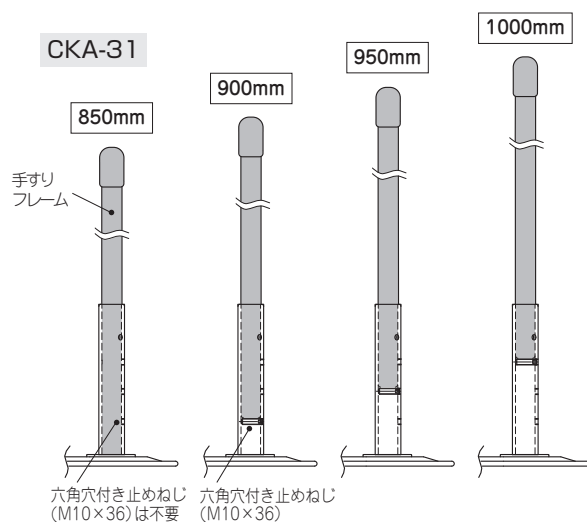
CKI-31



CKA-22・CKA-23・CKA-24



CKA-31



⚠ 注意



禁止

● 電動工具 (電動ドライバー等) を使用しない。

過剰トルクで締め付けるとねじの破損の原因になります。
(ねじの締め付け摩擦熱により焼き付けが発生し、締め付け・取外しができなくなる可能性があります。)



必ず守る

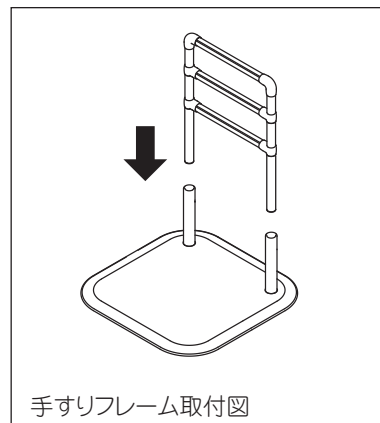
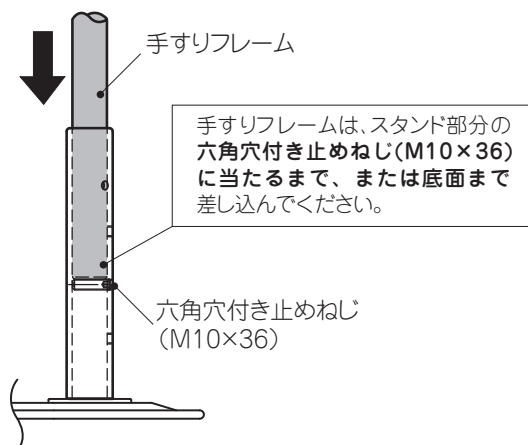
● 六角穴付き止めねじ(M10 × 36)のねじ頭がスタンド面から出ていないことを確認する。

ケガの原因になります。

③ 手すりフレームの取付け

手すりフレームをスタンドに差し込んで、スタンド底面＜手すりフレーム高さが最低高さの場合＞、または六角穴付き止めねじ＜手すりフレーム高さが最低高さ以外の場合＞に確実に当ててください。手すりフレームの高さは左右同じになるように、六角穴付き止めねじの位置を決めてください。

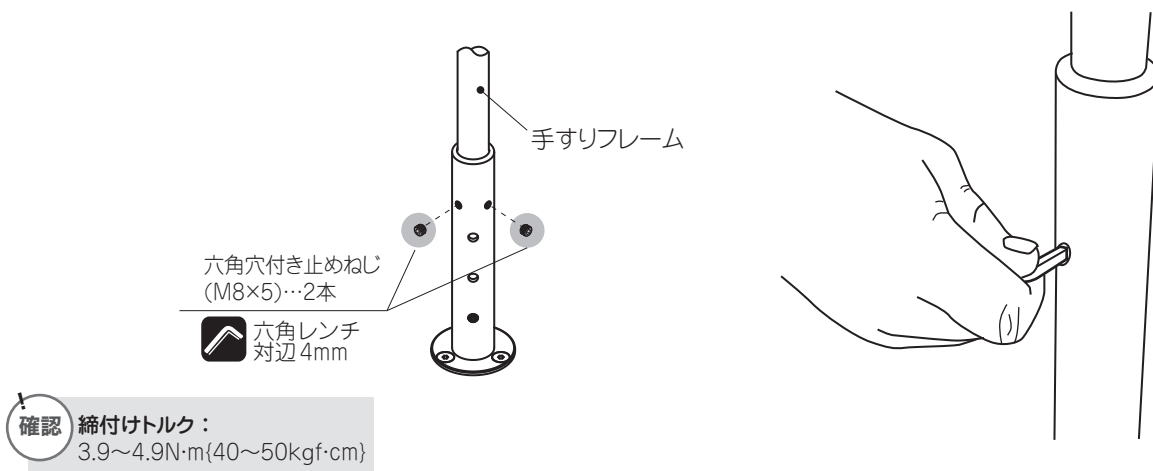
※ 手すりフレームが取り付けにくい場合、①で仮止めした六角穴付き皿ねじを若干ゆるめてから再度取り付けてください。



⚠ 注意	
! 必ず守る	●手すりフレームの高さは左右同じになるように設定する。
	●手すりフレームはスタンド底面＜手すりフレーム高さが最低高さの場合＞または六角穴付き止めねじ (M10 × 36) ＜手すりフレーム高さが最低高さ以外の場合＞に当たるまで差し込む。 差し込みが不十分ですと、ガタつきの原因になります。

④ 手すりフレームの固定

手すりフレームを差し込んで、六角穴付き止めねじ 2 箇所を六角レンチで締め付け、手すりフレームを固定してください。スタンド面からねじ頭が出ていないことを確認してください。

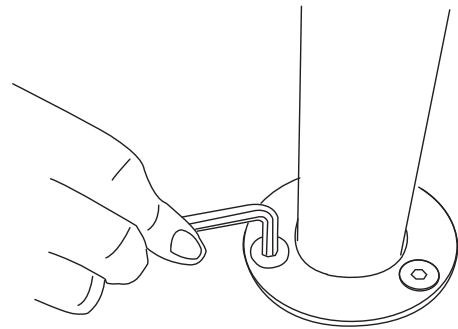
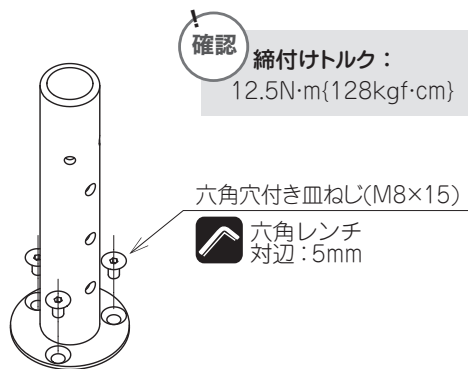


⚠ 注意	
! 必ず守る	●六角穴付き止めねじ (M8 × 5) のねじ頭がスタンド面から出ていないことを確認する。 ケガの原因になります。

※繰り返し手すりフレームの高さ調整をした場合、高さによっては傷や六角穴付き止めねじ (M8 × 5) の跡が見える場合があります。

⑤ 六角穴付き皿ねじの締付け

①で行った仮止め状態の六角穴付き皿ねじ (M8 × 15) を六角レンチにて確実に締め付けてください。



⑥ ガタつきの確認

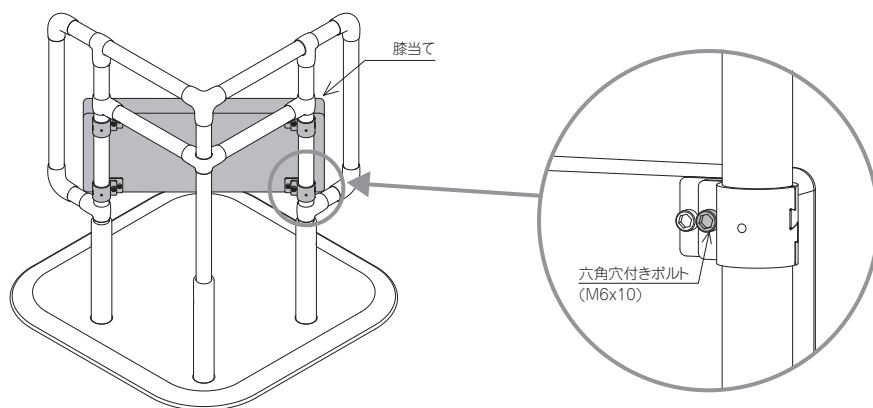
スタンドや手すりフレームにガタつきやねじのゆるみがないか確認してください。

⚠ 注意	
 必ず守る	●組み立て後、ガタつき・ねじのゆるみ・締め忘れがないことを必ず確認する。 事故やケガの原因になります。

※以下の⑦⑧は CKI-22 のみ必要な手順です。

⑦ 膝当ての取付確認

膝当てにガタつきがないこと、また、六角穴付きボルトがゆるんでいないことを確認してください。



膝当ての取付・取外方法

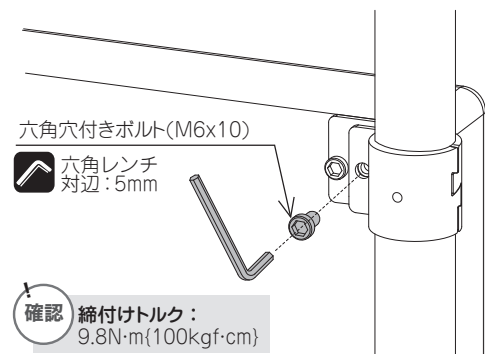
膝当ては取付け、取外しが可能です。

● 取付け

膝当ての高さを調整し、取付金具 (4箇所) をはめてください。
六角穴付きボルトを六角レンチにて確実に締め付けてください。

● 取外し

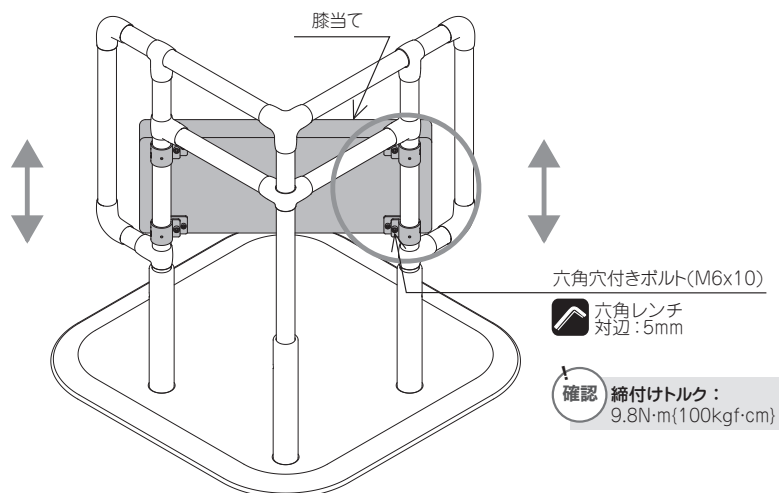
六角穴付きボルト (4箇所) を六角レンチにてゆるめて
取り外してください。



⑧ 膝当ての高さ調整

膝当ては無段階で高さ調整が可能です。

高さ調整が必要な場合は、六角穴付きボルト（4箇所）を六角レンチにてゆるめ、スライドさせて高さを調整してください。高さが決まったら、六角穴付きボルト（4箇所）を六角レンチにて確実に締め付けてください。



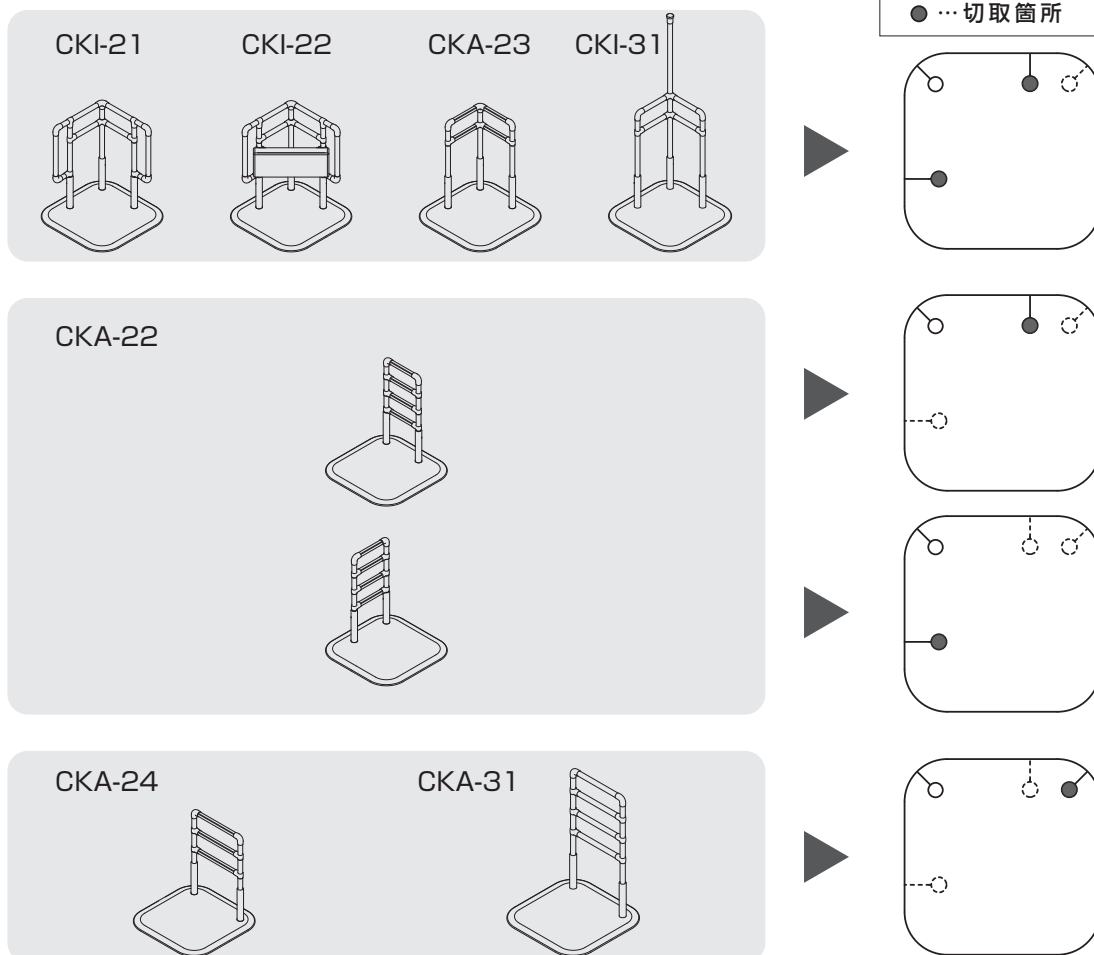
⑨ マットの取付け

マットの指定位置をカットする作業が必要になります。

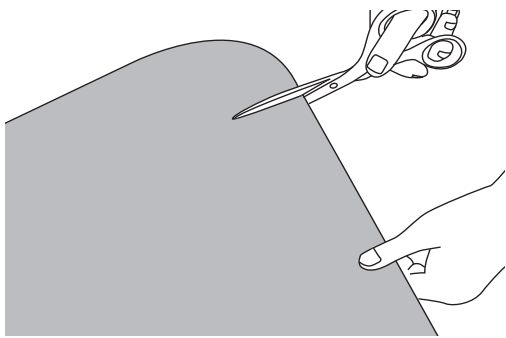
取り付ける「たちあがりⅡシリーズ」の品番を確認していただき、「切取位置図」で切取位置を確認してから作業を始めてください。

※ ベースに取り付ける前にベースマットのミシン目に合わせて折り、軽くクセをつけておくと取り付けしやすくなります。

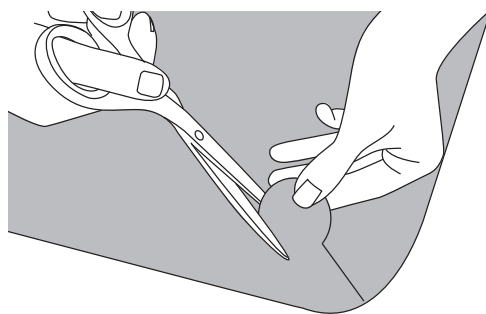
切取位置図



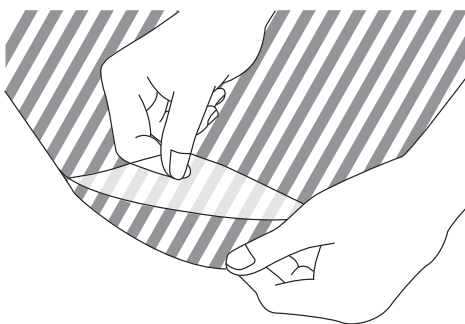
1. 切取位置図を確認し、スタンド部分の円形に向かってミシン目をカットしてください。



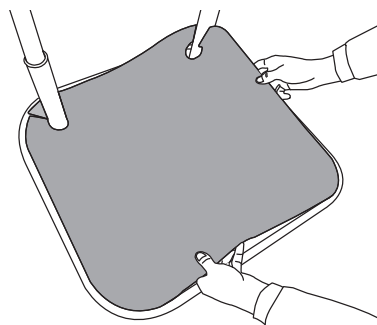
2. スタンド部分の円形を切り取ってください。



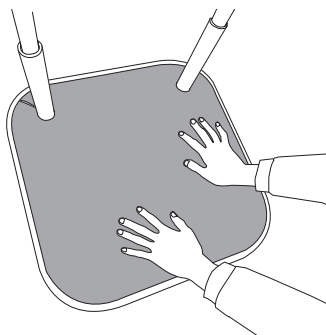
3. マット裏面についている、吸着面保護フィルムをきれいにはがしてください。



4. 手すりフレームを付けたまま、吸着面を下にして、切り取った円形とスタンドの位置が合うようにマットをかぶせてください。

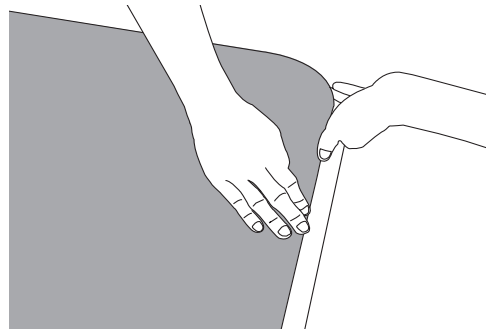


5. マットにシワができないように、手で軽く押さえながら貼ってください。



※寒くなると低温による樹脂の硬化や乾燥などの要因により吸着力が弱くなる場合があります。その場合は、ぬるま湯につけて絞った布で拭き、部屋の温度を暖かくすることで吸着力は復活します。

6. ベースと縁ゴムの間にマットの端を入れてください。シワ、たるみが出れば手で押さえってください。



⚠ 注意	
 禁止	● たちあっぷⅡシリーズのベースに貼り付ける以外の用途では使用しない。
	● 土足で使用しない。 マットが傷んだり、破損の原因になります。
	● マットに跡が付くものや傷をつけるような鋭利なものを載せない。 跡が付いたり破れるおそれがあります。
 必ず守る	● ベースは必ずマットを貼り付けた状態で使用する。 使用中にマットがめくれれたり、たるみができた場合は整えてから使用する。 マットを使用しないと滑って転倒するおそれがあります。 また、マットにめくれやたるみがあるとつまずいて転倒するおそれがあります。
	● 使用前に吸着面保護フィルムをはがす。

- ※ 埃などが付着するとベースへの吸着力が低下します。
その場合洗濯すれば回復します。洗濯しても吸着力が回復しない場合は、マットの交換をしてください。
- ※ 吸着力が強い場合はゆっくりと取り外してください。
万一、マット裏の吸着材が付着した場合は、ぬるま湯を浸した布で拭き取ってください。
- ※ 長期間貼り付けたままにしておくと、ベース面に密着することがあります。定期的に取り外して洗濯することをお勧めします。
- ※ 寒くなると低温による樹脂の硬化や乾燥などの要因により吸着力が弱くなる場合があります。
その場合は、ぬるま湯につけて絞った布で拭き、部屋の温度を暖かくすることで吸着力は復活します。
- ※ マットの洗濯は「[8-1] 日常のお手入れ」を読んでから行ってください。
- ※ マットの性質上、洗濯によって縮む場合があります。

7. ご使用前の確認

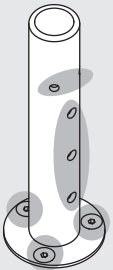
！ 設置完了後、また定期点検時に、ガタつき・ねじのゆるみ・部品の破損がないか確認してください。

■ 確認チェックは下記番号順に進めてください。

①

手すりフレームにガタつきはありませんか？
→ガタつきや異音がある場合は、スタンドのねじをしっかりと締め付けてください。
(参考：P15～17)

【ねじ締め付け該当箇所】

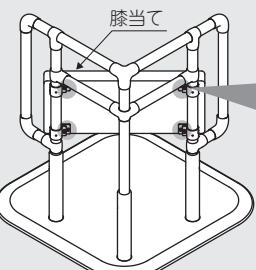


チェック✓

②

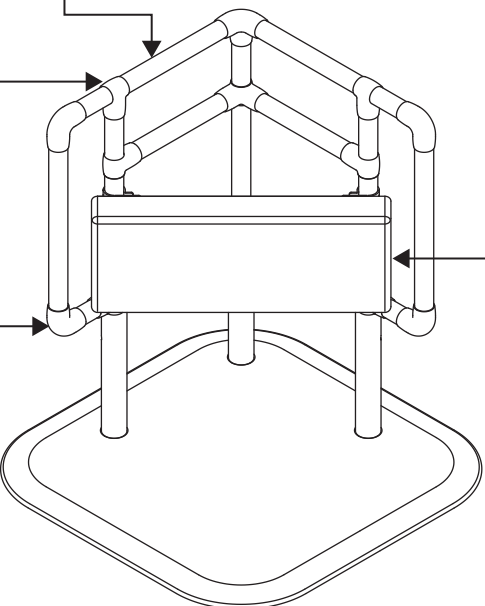
膝当てにガタつきはありませんか？
(CKI-22 のみ)
→ガタつきや異音がある場合は、膝当てのねじをしっかりと締め付けてください。
(参考：P17～18)

【ねじ締め付け該当箇所】



チェック✓

➡ ②の確認へ



CKI-22

③

プラスチックジョイント部分に亀裂(白い筋)などの異常はありませんか？
→異常があった場合はご使用を中止して、お買い上げの販売店またはレンタル事業者、ケアマネジャーにご相談ください。

【白い亀裂】




チェック✓

➡ ③の確認へ

上記の確認をしても異常がある場合は、お買い上げの販売店またはレンタル事業者、ケアマネジャーにご相談ください。

8. お手入れ方法

8-1. 日常のお手入れ

<手すりフレーム・スタンド・ベース>

- 水か中性洗剤を含ませた布を固く絞って拭いてください。
- スタンドに指紋や手の跡がついているのが気になる際は、水か中性洗剤を含ませた布を固く絞って拭き取ってください。

<マット>

- マット表面に汚れが付着した場合は、掃除機などで取り除くか、水か中性洗剤を含ませた布を固く絞って拭き取ってください。
- マットは洗濯することができます。
 - ・洗濯機は弱水流で中性洗剤を使用してください。液温は 30℃ が限度です。
 - ・乾燥機の使用はできません。
 - ・柔軟剤は使用しないでください。
 - ・漂白剤による漂白は行わないでください。
 - ・洗濯の後は陰干してよく乾かしてから使用してください。

⚠ 注意	
禁止	● 酸性・アルカリ性洗剤は使用しない。 錆、変色、変質、塗装の剥がれの原因になります。 必ず中性洗剤を使用してください。
	● シンナー・ベンジンなどは使用しない。 変質して破損するおそれがあります。
	● たわしや磨き粉などで磨かない。 傷がつくおそれがあります。
必ず守る	● 直射日光は避けて、陰干しする。

	液温は 30℃ を限度とし、洗濯機で弱い洗濯ができる
	塩素系および酸素系漂白剤の使用禁止
	日陰のつり干しがよい
	タンブル乾燥禁止
	アイロン仕上げ禁止

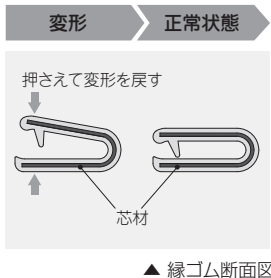
8-2. 点検

- 定期的に点検を行い、ガタつき・ねじのゆるみ・部品の破損・マットのめくれ・縁ゴムの外れや破損・その他異常がないことを確認してください。

<縁ゴムの再取付>

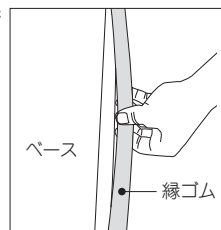
落下などの衝撃により縁ゴム内の芯材が変形することがあります。変形すると縁ゴムをはめこんでも、すぐ外れてしまうので、指で芯材を押さえつけてから、はめ込みを行ってください。

⚠ 注意	
必ず守る	● 定期的にガタつき・ねじのゆるみ・部品の破損・マットのめくれ・縁ゴムの外れや破損・その他異常がないことを確認する。 異常があった場合は、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店へご相談ください。

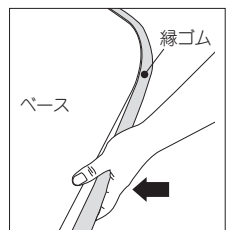


● 再取付手順

- (1) 外れた箇所を指で押さえつけてください。



- (2) 手で縁ゴムをはめ込みます。



8-3. 消毒方法

- 消毒は納入業者、または消毒施設のある業者に依頼してください。
- アルコール清拭消毒、逆性石鹼清拭消毒などを推奨します。消毒後は、仕上げに水拭きをしてください。
- この製品に使用している素材の物性を考慮した消毒方法を選択してください。
- 塩素系の消毒液を使用する場合は、使用する消毒液の使用方法及び使用上の注意に従い、希釈して使用し、仕上げに水拭きをしてください。
(参考：次亜塩素酸ナトリウム 6%水溶液なら 120 倍～300 倍程度に希釈)

⚠ 注意	
禁止	● オゾンガス、ホルムアルデヒドガスは使用しない。 変質して破損するおそれがあります。
必ず守る	● アルコール系の消毒液や逆性石鹼、塩素系の消毒液が付着した場合は水拭きをし、製品表面に消毒液が残らないようにする。 錆、変色、変質、塗装の剥がれの原因になります。

8-4. 保管方法

- 製品は直射日光の当たらない乾燥した常温の室内で保管してください。

 注意	
 必ず守る	● 製品は直射日光の当たらない乾燥した常温の室内で保管する。 高温多湿の場所で保管すると、変形、結合部の外れの原因になります。

8-5. 長期使用について（手すりフレーム）

- 経年劣化により安全上支障が生じるおそれがあることを注意喚起するために、製造年月日を手すりフレームに表示しております。これは、使用開始時期とは異なります。
- 安全使用期間とは、たちあっぷシリーズを一般家庭にてご使用いただき、適正な取扱い・維持管理が行われた場合に、安全上支障なく使用できる期間として、製造年月日から想定される期間です。
これは、無償保証期間とは異なります。
- 一般家庭以外の不特定多数の方が使用される施設や病院などで使用される場合は、安全使用期間よりも劣化が早まるおそれがあります。
- 経年劣化とは、長期間にわたる使用や処置の他、雨風・湿気・温度変化・日照などによる品質の低下からくる劣化のことをいいます。

	想定上の安全使用期間 8 年 安全使用期間を超えてお使いいただいた場合は、経年劣化によるケガなどの事故に至るおそれがあります。
---	---

※製品改良のため、仕様・外観は予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

矢崎化工株式会社

■ 本 社 〒422-8519 静岡県静岡市駿河区小鹿 2-24-1

介護支援ページ
kaigo-web
<https://www.kaigo-web.info/>

■ 北 海 道 支 店 福祉介護課
〒072-0007 北海道美幌市東 6 条北 8-2-1
TEL 0126(63)4285

■ 仙 台 支 店 福祉介護課
〒981-1223 宮城県名取市下余田字中荷 280
TEL 022(382)2145

■ 関 東 支 店 福祉介護課
〒373-0823 群馬県太田市西矢島町 88
TEL 0276(38)4562

■ 東 京 支 店 福祉介護課
〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢和田 1-38-3
TEL 04(2944)7113

■ 神 奈 川 支 店 福祉介護課
〒257-0024 神奈川県秦野市名古木 3-4
TEL 0463(81)4315

■ 名 古 屋 支 店 福祉介護課
〒484-0963 愛知県犬山市宇鶴池 48-2
TEL 0568(67)0111

■ 大 阪 支 店 福祉介護課
〒569-8551 大阪府高槻市大塚町 5-1-1
TEL 072(672)8440

■ 広 島 支 店 福祉介護課
〒738-0042 広島県廿日市市地御前 1-7-17
TEL 0829(36)1111

■ 九 州 支 店 福祉介護課
〒820-0702 福岡県飯塚市平塚 481-1
TEL 0948(72)0310

17032510

DW-237-08